

Title	自動車部品メーカーの成長過程と成長戦略に関する考察
Sub Title	
Author	飯坂哲(Iisaka, Satoshi) 河野宏和
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1993
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1993年度経営学 第976号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001993-0976

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名

飯坂 哲

(株式会社ゼクセル)

主査 河野 宏和

副査 小野桂之介

古川 公成

所属

河野 宏和 研究室

自動車部品メーカーの成長過程と成長戦略に関する考察

本研究の目的は、一次自動車部品メーカーを対象として、それらの全体に対して今後の成長のための戦略的な指針を提言することである。しかし、全体として見ると部品メーカーは、単一の指針を提言する対象としては多種多様である。しかも、将来の成長戦略の選択に際しては、現在の環境変化と同時に、過去の成長過程の中で構築されてきた完成車メーカーとの関わりの与える影響が大きい。なぜならば、両者の関係は、取引量が増加するほど、密接にかつ固定的になる特徴をもつからである。本研究では、そのような問題の構造を明らかにするために、次の三つのアプローチを併用して分析を行い、得られた知見から戦略的な指針を提示することを試みている。(1) 公刊データを用いた、業界と各企業の'82年~'92年の成長過程の分析(2) アンケートとインタビューによる企業行動の背後にある経営意図の分析(3) 事例研究 上記の分析から、次のことが明らかになった。過去の成長過程において、部品メーカー間で、売上規模については格差が広がり、営業利益率については集中度が高まった。また自動車売上に対する依存度で見ると、特に需要変動が激しかった'90年以降から分散する傾向にある。そして、事例研究及びインタビューからは、完成車メーカーにより依存せずに成長を果たすための重要な鍵は、製造力と販売力のバランスであることが分かった。また、アンケート及びインタビューからは、系列崩壊の気配が感じられる今、今後部品メーカーが生き延びていくためには、まず自社の事業を的確に評価する力が必要である事が明らかになった。本研究では、終章において、これらの知見に基づいて、部品メーカーのこれからの成長戦略について検討している。